

# 畠山和也氏が根室で調査活動

日本共産党の前衆議院議員で次期参議院議員選挙北海道選挙区予定候補の畠山和也氏が19日来根し、領土問題などについて調査活動を行いました。



18日には水産加工業者と懇談

18日の夜に根室入りした畠山氏は、「夕食会」を兼ねて市内の水産加工業者と懇談。漁獲量の激減により疲弊している現在の水産加工業、市中経済のリアルな実態についてお聞きしました。

北方領土遺産発掘・継承事業の取り組み

19日は、最初に根室振興局を訪問。「振興局地域創生部北方領土対策課」が取り組んできた取り組みについて、担当者からお伺いしました。

特に、本年1月に行われた『北方四島く運命の9日間』企画展について、北方四島上陸作戦(1945年8月28日から9月5日)にアメリカの艦船が使用されていたことが判明、ソ連軍による上陸作戦の詳細や元島民の証言などをお聞きしました。

元島民の方々と懇談

次に、千島会館を訪問し、元島民及び元島民二世の方と懇談しました。みなさんからは「残地財産」の問題や四島への訪問事業のあり方、返還運動などについて、強い要望をお伺いしました。畠山氏は「本日お聞きした話を紙参議に

伝えるとともに、私自身必ず国会に戻り、みなさんの思いを政府にぶつけます」と決意を表明しました。

北方領土隣接地域振興

「財源確保」対策の状況と「北方四島における共同経済活動」の状況について

根室市役所では、右表題の内容について担当者から説明を受けました。

『北方領土隣接地域振興』については、百億円の基金の運用益(利子)による振興対策が行われてきました。低金利により既に限界が生じています。基金原資(百億円)の取り崩しを含む財源確保が求められています。

『共同経済活動』については、本年度約12億円の国の当初予算が措置されましたが、その内容は、「温室野菜栽培プロジェクト」「島の特性に応じたツアーの開発」「風力発電の導入」など、根室地域の関わりが困難と思われる。今後の行方を注視しなければなりません。

畠山和也「かけある記」

もっと領土交渉に力を

前衆議院議員・畠山和也

元気に道内各地をまわり、先週は道東地方へ。標津町では銘菓「標津羊羹」を口にしながら、弟子屈町ではおいしいコーヒーをいただき、鶴居村では新ストーブのぬくもりに包まれながら、各地の「つどい」に参加しました。どこでも安倍政権への怒りや不満が出されて時間が足りなくなるほどです。

根室市では、千島齒舞諸島居住者連盟のみなさんと懇談しました。領土問題の根本的解決とともに「島に残してきた家財道具などの財産保障を」「墓参り自由訪問を柔軟に、そもそも墓までの道を整備してほしい」などの要求も浮かびました。

この2年で業者20件が廃業するなど、根室市経済にも打撃が広がっています。ロシアによるサケ・マス流し網漁の禁止などもあり、昨年の総水揚げ量は市制施行後で最低でした。魚がなければ地元の水産加工や運輸業者は仕事がありません。業者に余裕がないため、元島民二世・三世が返還運動に参加する時間が取れなくなっている実情も聞きました。

今月28日はサンフランシスコ条約が発効し、日本側が千島列島を「放棄」した日。領土問題の未解決が、これだけ元島民や根室市民などを苦しめています。元島民の平均年齢は83歳を超え、ロシアとの本腰の交渉を急がなければなりません。米国から旧ソ連軍への武器貸与や、米ソ共同訓練の歴史も判明してきており史実の検証も課題です。昨年、領土交渉について安倍首相に質問した「続き」をしなければ！